

自己評価報告書

(令和元年度)

令和2年3月

富山市立富山外国語専門学校

令和2年3月

富山外国語専門学校 自己評価委員会は、令和元年度 自己評価を実施しましたので、その結果を報告いたします。

自己評価委員会	委員長	校長	上田 為久		
	委員	事務長	中島 志津子	教授	スーザン・浦上
		准教授	白野 妙子	講師	湯口 千鶴子
		講師	大村 裕子	講師	能登 有希
		主事	高山 弥生		

目次（点検項目一覧）

基準1 教育理念・目的・育成人材像等	1
点検項目	
【1-1】理念・目的・育成人材像は定められているか	
【1-2】学校の特色はなにか	
【1-3】学校の将来構想を抱いているか	
基準2 学校運営	2
点検項目	
【2-4】運営方針は定められているか	
【2-5】事業計画は定められているか	
【2-6】運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか	
【2-7】情報システム化等による業務の効率化が図られているか	
基準3 教育活動	2～4
点検項目	
【3-8】各学科の教育目標、育成人材等は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか	
【3-9】各学科の教育目標、育成人材を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルに明確に定められているか	
【3-10】カリキュラムは体系的に編成されているか	
【3-11】学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか	
【3-12】授業評価の実施・評価体制はあるか	
【3-13】育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	
【3-14】成績評価・単位認定の基準は明確になっているか	
基準4 教育効果	4～5
点検項目	
【4-15】就職率の向上が図られているか	

- 【4-16】資格取得率の向上が図られているか
- 【4-17】退学率の低減が図られているか
- 【4-18】卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

基準5 学生支援 6～7

点検項目

- 【5-19】就職・進学指導に関する体制が整備され、有効に機能しているか
- 【5-20】学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか
- 【5-21】学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか
- 【5-22】学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか
- 【5-23】課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか
- 【5-24】保護者と適切に連携しているか
- 【5-25】卒業生への支援体制はあるか
- 【5-26】留学支援や海外との連携による国際教育交流の体制があるか

基準6 教育環境 7～8

点検項目

- 【6-27】施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか
- 【6-28】学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか
- 【6-29】防災に対する体制は整備されているか

基準7 学生の募集と受け入れ 8

点検項目

- 【7-30】学生募集活動は、適正に行われているか
- 【7-31】学生募集において教育成果は正確に伝えられているか
- 【7-32】入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

基準8 法令等の遵守 8～9

点検項目

- 【8-33】法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか
- 【8-34】個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか
- 【8-35】自己評価の実施と問題点の改善に努めているか
- 【8-36】自己評価結果を公開しているか

基準9 社会貢献 9

点検項目

- 【9-37】学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか
- 【9-38】学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

基準 1 教育理念・目的・育成人材像等

【1-1】理念・目的・育成人材像は定められているか

学校創立以来、以下の教育目標を掲げ、その明確な理念のもとに人材育成を行っている。

多様化する時代の要請にこたえ、実用性のある語学を習得させるとともに、異文化への理解を深め、広い視野を持った国際人として、産業および文化の振興と発展に貢献する有能な人材の育成に必要な専門教育を行う。

この教育目標は、教職員及び学生に周知しており、学校要覧に明記することにより、学内外に向けて発信している。

【1-2】学校の特色はなにか

本校の特色としては、以下の点が挙げられる。

1. クラスを小規模編成とし、個別指導をきめ細かく行う。
2. 外国人専任講師 6 人を含む優れた講師陣が、生きた英語によるコミュニケーション重視の授業を行う。
3. 充実した教材と機器を使用して、実務トレーニングを行う。
4. 卒業後の進路に備えて、実用英語技能検定（英検）や TOEIC などのより高い資格検定取得の支援を行う。
5. 幅広い教養を培うために、「異文化理解」「日本語」「パーソナル・コンピューティング」などの科目を設ける。
6. 豊かな人間性を養うために、多彩な学校行事を実施する。

【1-3】学校の将来構想を抱いているか

本校は、時代のニーズに柔軟に対応できる実学重視の教育機関として、昭和 60 年 4 月に開校した、全国で唯一の公立外国語専門学校である。

少子化の進行に伴い、高校卒業者が減少する一方、大学等を卒業後入学してくる学生が増加するなど、本校を取り巻く環境が変化したことから、平成 14 年 4 月に「実務英語科」の定員を削減（60→40 人）するとともに、大学等で学んだ専門知識に加え、より高い英語力を兼ね備えた人材を育成するため「専攻科」（定員 15 人）を設置し、現在に至っている。

学校のあり方、将来構想については、社会の変化や期待、学生のニーズなどをもとに、カリキュラムの見直し、施設、設備、人材の有効活用等を中心に、毎年検討しているところであり、今後も教育目標の実現を目指して検討を継続していく。

基準 2 学校運営

【2-4】運営方針は定められているか

年度当初の職員会議において、校長が運営方針を教職員に示し、周知している。運営方針は、教職員の行動指針となるものである。

【2-5】事業計画は定められているか

年度毎に「年間行事予定」を作成している。

年間行事予定は、校長、事務長、教授、准教授で構成する校務運営委員会での承認後、年度当初の職員会議で教職員に周知されている。

なお、事業・業務の執行状況は、担当者が進捗管理を行うとともに、校長が総括的に管理している。

【2-6】運営組織や意思決定機能は効率的なものになっているか

本校では「校務運営委員会」及び「職員会議」を定期的で開催しており、必要に応じて重要事項の協議や周知を行うなど、組織としての意思決定を効率的に行っている。

また、「校務分掌」により教職員が果たすべき役割を明確化することで、業務遂行を円滑に進めている。

【2-7】情報システム化等による業務の効率化が図られているか

本校では、学籍・成績処理システム、財務会計システム、教員間の情報共有のため校内 LAN などを活用しており、必要に応じて更新や改修を行うなど、業務の効率化を図っている。

基準 3 教育活動

【3-8】各学科の教育目標、育成人材等は、その学科に対応する業界の人材ニーズに向けて正しく方向付けられているか

本校の教育目標は「多様化する時代の要請にこたえ、実用性のある語学を習得させるとともに、異文化への理解を深め、広い視野を持った国際人として、産業および文化の振興と発展に貢献する有能な人材の育成に必要な専門教育を行う。」である。

この目標を達成するため、業界のニーズについては、就職担当教員と校長が5月に行う企業訪問で、また、高校からの要望については、校長が5月に行う高校訪問や、6月に開催する高校の進路指導担当を対象とした学校説明会で把握している。

各学科のカリキュラムは、教授会で毎年見直しを行っているが、見直しの観点は、学校の教育理念との整合性、各科目の時間数のバランス、業界や高校のニーズに応えているか等である。

【3-9】各学科の教育目標、育成人材を構成する知識、技術、人間性等は、業界の人材ニーズレベルに照らして、また学科の教育期間を勘案して、到達することが可能なレベルに、明確に定められているか

実務英語科の目標は、「豊かな英語力を身につけ、英語をコミュニケーションの道具として自在に使えるようにする」であり、専攻科の目標は、「高度な英語力に加え、国際感覚に優れた人材の育成を目指す」である。

これらの目標を達成できるよう、科目間の整合性、時間配分、指導方法のバランスに配慮するとともに、各科目の到達目標を定め、年度当初に学生に周知するシラバスに明記している。

業界の人材ニーズは、企業訪問での採用担当者との面談を通じて把握に努め、
・中国と関係が深い県内企業が多いことから、2年次の選択履修科目「中国語Ⅱ」に加えて、「中国語Ⅰ」を1年次の全員履修科目とする
・社会人としての基本的なマナーや言葉遣い習得のため「キャリア・ガイダンス」を1年次の全員履修科目とする
など、科目に反映させている。

また、近年4年制大学の3年次編入学を希望する学生が増加傾向にあることから、大学教授による出前講義や編入学試験の内容・レベルの研究などを通じて、大学が求める学生像の把握に努め、「アカデミック・ライティング」「日本語Ⅰ・Ⅱ」等の授業、課外に行う面接指導や受験セミナー等に反映させている。

学生の履修状況については、科目の担当講師が日常的に把握するほか、学級担任による定期的な面接や、校長による全学生との個別面接において把握し、指導内容・方法の改善に反映させている。

【3-10】カリキュラムは体系的に編成されているか

カリキュラムは、各学科の到達目標に照らして編成されており、移り変わる時代の要請や学生の実態などを勘案して見直しを行っている。

【3-11】学科の各科目は、カリキュラムの中で適正な位置付けをされているか

カリキュラムに基づき、各科目の年間の授業進行スケジュール、時間配分、使用教材などについて、詳細な検討をして、シラバスとしてまとめている。シラバスは年度当初の授業で学生に配布している。

【3-12】授業評価の実施・評価体制はあるか

授業評価として、2つのアンケートを実施している。

一つは、TCFL アワーに校長が実施し、学生が高く評価する授業、改善を求める授業など具体的な声を一覧表にまとめ、各担当講師にフィードバックしている。

もう一つは、各科目の担当講師が個々の授業に関して実施し、授業改善用の資料として活用している。

【3-13】 育成目標に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか

教員の採用にあたっては、一次選考として履歴書などの提出書類の精査、二次選考として担当予定科目の模擬授業の実演、面接を行い、本校の教員として適しているか判断している。

常勤講師については、3つの学会にローテーションで参加できるよう研修計画を立て、指導法の改善やCALLシステムなど機器活用に関する最新情報に触れる機会を確保し、講師の資質向上を図っている。また、学会参加後は、報告書を常勤講師で閲覧し情報共有している。

【3-14】 成績評価・単位認定の基準は明確になっているか

成績評価・単位認定の基準は、学則7, 8, 9条に定められており、進級・卒業判定に関するより具体的な細目は、教務規程に定められている。これらは、入学直後のオリエンテーションで新入生全員に周知し、特に進級・卒業認定の基準となるGPA(Grade Point Average=評定平均値)や、欠課の定義・許容限度については、具体例を挙げて理解の徹底を図っている。また、欠課時数に間違いがあった場合は、成績表が届いてから、学生が約2週間の期限内に科目担当講師に申し出、その後教務、校長の承認を経て、厳正に処理することとしている。

基準4 教育効果

【4-15】 就職率の向上が図られているか

就職率向上のため以下のことを実施している。

<4~5月>

- ・就職担当教員、校長、学級担任による個人面接での進路希望聞き取りと進路指導
- ・TCFL アワーでの、就職希望者を対象とした、ハローワーク・ジョブサポーターによる就職活動全般に関する指導及び模擬面接指導
- ・就職担当教員と校長による企業訪問を通しての情報収集と求人開拓
- ・県内の企業を学校に招いての学生に対する進路講話
- ・入社試験の筆記テスト対策としての一般常識及びSPIの演習
- ・卒業生が仕事や職場、就職活動時の体験を在校生に語るキャリアデー

<通年>

- ・就職情報産業、ハローワーク、県内企業、卒業生を通しての求人情報収集と学生への周知
- ・就職希望者に対する志望理由書・履歴書及びエントリーシートの書き方指導
- ・個人面接及び集団面接に対応した面接対策指導
- ・精神面を含めての、就職希望者に対する就職カウンセリング
- ・「キャリア・ガイダンス」を1年次全員履修科目とし、就職希望者に1年次の年度末から履歴書の書き方指導と模擬面接を行っている。

【4-16】 資格取得率の向上が図られているか

本校では、次の検定資格取得を重点目標とし、取得率向上のため以下のことを実施している

<実用英語技能検定>

1年次、2年次、専攻科の枠をはずし、目標級ごと、能力別にクラスを編成して、週3時間の英検対策に特化した授業をより効率的に行っている。また2次試験対策として、試験直前の1週間は毎日、放課後に、教員全員が面接官となって模擬面接を実施し、合格率の向上を図っている。

<TOEIC>

1年次、2年次は、週1時間のTOEIC対策に特化した授業を全員履修科目とし、専攻科は、週2時間の選択履修科目としている。学生全員が年2回受験することとし、スコアの向上に繋げている。

<コンピューターサービス技能評価試験>

2級ワープロ技士と3級表計算技士を目指し、1年次と2年次に「パーソナル・コンピューティング」を週2時間の全員履修科目とし、2年次には「パーソナル・コンピューティング演習」を週1時間の選択履修科目としている。

検定試験の結果は、合格者を掲示板に張り出して顕彰するほか、合格証書授与式を全校集会で行い、学生の奮起を促している。

【4-17】 退学率の低減が図られているか

退学の理由としては、「欠課時数が限度である5分の1を超え、複数の科目で単位不認定になり、進級・卒業に必要な要件を満たせない」という場合が多く、健康上の問題、特に精神面での理由による欠席が増加傾向にある。

日常的な指導として、欠課時数が多い場合は、科目担当講師から学生に注意している。さらに、単位不認定につながる恐れがある学生については、教授会において科目担当講師又は学級担任から随時報告され、前期末の成績会議では、学年末での進級・卒業不認定という最悪の事態を回避するため、進級や卒業が危ぶまれる学生に関しては、GPA一覧表に基づいて細かく状況分析を行っている。これを受けて、学級担任による面談はもちろん、校長による面談、必要に応じて保護者を交えての3者面談を行い、学生の奮起を促している。

【4-18】 卒業生・在学生の社会的な活躍及び評価を把握しているか

卒業生については、創立30周年記念行事の一環として、全卒業生・修了生に葉書を送り、同窓会名簿データベースを新しく作成した。

また、卒業生の個人的なつながりを通して活躍状況を把握し、社会的に特筆すべき活躍をしている卒業生を学校に招いて、年2回（7、12月）特別講演会を開催し、その内容は、Facebookで公開している。

在学生の社会的な活躍については、マスコミ報道等で把握に努めており、顕著なものについては、全校集会等で紹介することとしている。

基準5 学生支援

【5-19】 就職・進学指導に関する体制が整備され、有効に機能しているか

就職・進学指導は、進路指導担当教員が学級担任との連携により実施している。指導は、計画されたスケジュールに沿って、1年次より卒業まで進められる。

就職希望者に対しては、就職活動に必要な知識の講義である就職指導、就職講話、キャリアデイ、各分野で活躍している先輩による講演や個別指導等を行い、また、進学希望者に対しては、富山大学からの出前講座、大学に編入した先輩から話を聞くプレパレーションセミナー、夏季特別対策講座、面接練習等を行い、学生が希望する職種への就職や進学を果たせるよう支援に努めている。

【5-20】 学生相談に関する体制は整備され、有効に機能しているか

学級担任が、年2回面接を行い、修学状況や進路希望だけではなく、学校生活全般における悩み等についても相談を受けている。また、校長も年1回全学生と個別面接を行っている。講師のオフィスは基本的にドアを開け、学生が相談に訪れやすい雰囲気作りに努めている。

【5-21】 学生の経済的側面に対する支援が全体的に整備され、有効に機能しているか

経済的な支援が必要な学生に対しては、日本学生支援機構の奨学金の活用や、市独自の授業料減免制度の活用などを勧めている。これらの支援については、担当事務職員が、入学後説明会を実施し、学生に周知している。

【5-22】 学生の健康管理を担う組織体制があり、有効に機能しているか

学校保健安全法に基づき、委嘱している医師により、毎年5月に定期健康診断を実施し、結果を学生に通知している。また、校内に保健室を設けており、体調の悪い学生は保健室で休養できるようになっている。

【5-23】 課外活動に対する支援体制は整備され、有効に機能しているか

学生会活動では、学生生活及び学園祭・クリスマスパーティ等の学校行事を提案し実行している。

学生が自主的に活動する同好会については、現在、活動していないが、過去にはサッカー、映画などの同好会が定期的に活動し、活動場所の確保など支援していた。今後も、活動する同好会があれば、必要に応じて支援をしていく。

【5-24】 保護者と適切に連携しているか

年2回通知する学生の成績を保護者宛に送付することにより、保護者との連携の保持に努めている。修学状況等において必要がある場合は、学級担任が保護者に連絡を取り、場合によっては面談を行っている。

また、文化発表会、ドラマ上演等の学校行事について保護者に案内し、学生の活動状況を見てもらう機会の提供に努めている。

【5-25】 卒業生への支援体制はあるか

10年に一度、拡大同窓会を開催し、卒業生が本校の現状を知ったり、卒業生同士が互に情報を交換したりするよい機会となっている。また、準備段階での連絡による調査で卒業生の動向を把握し、その情報に基づき名簿を改定しデジタルデータベース化している。

個別に在学時の担任等を頼って来校する卒業生に対しては、就職、転職等に関する相談や支援を行っている。

【5-26】 留学支援や海外との連携による国際教育交流の体制があるか

進学指導担当の教員が、海外留学について情報収集に努め、留学を希望する学生がいた場合、その学生の希望にあう学校や国を紹介している。

昨年度からデューク大学で日本語を学んでいる学生と本校2年生との間で交流しつつ、互いの言語を学びあうプロジェクトが始まった。

基準6 教育環境

【6-27】 施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか

施設・設備の管理については事務職員が行っており、教育関連備品については、教員が日常的に管理している。

施設・設備の改善については、教育上の効率性や学生にとっての利便性（学生の満足度調査を年1回実施）などの観点から、年度ごとに検討し実施している。

なお、特に進展の著しい視聴覚、IT関連の設備・機器については、予算の範囲内で可能な限り最新のものに更新している。

【6-28】 学外実習、インターンシップ、海外研修等について十分な教育体制を整備しているか

学外実習については、「英語指導技術」を履修している学生がアシスタントとして「小学生英語ふれあい教室」（小学3・4年生を対象に土曜日開設）に参加し、教育実習の役割を持たせている。

海外研修については、毎年2～3月に実施しており、今年度は、富山市の友好姉妹都市であるアメリカのダーラム市のダーラム・テクニカル・コミュニティ・カレッジで、希望者14名が参加して3週間にわたる語学研修を実施した。

インターンシップは学生の要望に応じて実施している。

【6-29】 防災に対する体制は整備されているか

富山市では、危機管理業務の一環として「富山市業務継続計画」を作成しており、本校ではこの計画に基づき、「学校の運営に関する事務」と「学生の安全確認・安全確保」について、非常時優先業務を遂行するための具体的な行動等を定めた「非常時優先業務マニュアル」を作成している。

また、9月には、学生と教職員を対象に、呉羽山断層帯を震源とするマグニチュード7.4の地震を想定した避難訓練を実施するとともに、公開講座「専修コース」の受講者には、災害時に身の安全を守る行動についてお願いする文書を配布している。

基準7 学生の募集と受け入れ

【7-30】 学生募集活動は、適正に行われているか

学生募集活動として、以下のことを実施している。

- ・学校要覧を作成し、入学希望者や県内の全高校及び近県の一部の高校等に配布している。学校要覧は、進路選択のための十分な判断材料を入学希望者に提供する内容となっている。
- ・5月に校長が県内の高校を訪問し、本校のPRなどを行っている。
- ・6月に高校の進路指導担当者を対象に学校説明会を開催し、本校の教育内容や入学試験などについて説明している。
- ・年2回（7、9月）模擬授業などを体験できる半日体験入学を実施している。

【7-31】 学生募集において教育成果は正確に伝えられているか

卒業生の進路状況や各種資格検定取得状況などの教育成果については、年度毎の情報を学校要覧に記載し、入学希望者に配布している。

また、ホームページでも公開し、情報が広く伝わるよう努めている。

【7-32】 入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか

入学選考は、学則第17条に基づき、学力検査及び面接により行っている。

入試問題は、7月に各教員に作成を依頼し、9月に入試問題検討会による問題の適否の検討及び選択を行っている。また、4回の入試ごとに、問題の間違いやリスニングテストの収録状態の不備、問題漏洩等がないよう細心の注意を払い、厳正な学力検査の実施に努めている。

入学者の選考は、採点終了後、教授会を開き、入試結果の一覧表を基に行っており、その際には、過年度との比較や面接試験の状況も考慮しながら、合格ラインを決定している。

基準8 法令等の遵守

【8-33】 法令、設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか

法令や設置基準等について、県や国から通知等があった場合には、内容を精査し、教職員に周知を図るとともに、重要な案件については協議し、必要に応じて条例や規則の改正等を行っている。

【8-34】 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか

本校における個人情報の管理については、「富山市個人情報保護条例」に基づき行われている。また、個人情報の取扱いについては、条例を遵守し細心の注意を払うよう、校長が年度初めに教職員に注意喚起している。

【8-35】 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか

平成 22 年度から自己評価を全校的な業務と位置づけて、毎年度実施している。また、評価結果として明確になった問題点については、順次改善に努めている。

【8-36】 自己評価結果を公開しているか

自己評価結果については、自己評価結果報告書を作成し、本校のホームページで公開している。

基準 9 社会貢献

【9-37】 学校の教育資源や施設を活用した社会貢献を行っているか

本校が有する人材と施設の有効活用をねらいとして、外国語を学びたい方が自分のレベルや授業内容に応じて講座を選び学習できるように、公開講座「専修コース」を開設している。今年度は 16 種 31 講座を開設し 1,012 人が受講した。

また、海外旅行等に役立つ初歩的・基本的な日常会話の習得や、より高い語学力が習得できるように、公開講座「夏季集中講座」を開設している。今年度は 6 講座を開設し 143 人が受講した。

さらに、小学校 3・4 年生を対象とした「小学生英語ふれあい教室」を開設し、市内の小学生に英語への興味・関心を高め、国際理解を深める機会を提供している。

【9-38】 学生のボランティア活動を奨励、支援しているか

平成 22 年度に、学生の間でボランティア活動を実施しようという気運が高まり、学生会を中心に社会貢献活動に取り組み始めた。学生会担当の教員などが助言、支援を行っている。

今年度は、富山市街地活性化の取り組みの一つである「越中大手町市場—トランジットモール」に本校学生会が参加し、外国人への観光案内や日本茶の提供等を行った。

また、4 年に一度（次回は令和 2 年 8 月）開催される PAT（とやま世界こども舞台芸術祭）に、学生がボランティア通訳として参加している。

●総合的な評価結果

本報告書に記載したとおり、各点検項目について、概ね適切に取り組んでおり、全ての基準を満たしているものと評価する。